

お母さんのみそしる

なかしま
中嶋 航之介

ぼくはお母さんが大好きです。ずっといつしよにいたいと思います。

だけど、さい近は、ブロックであそんでいたたり、本を読んでいたりと、お母さんによばれても、うわの空。時には、「しずかにして。」と言つてしまいます。

そんな時、おばあちゃんから、「おみそしる、毎日のんでやる。体にすごくいいんだつて。夏ばてもよぼうでできるらしいよ。だから航之介は元気やねんな。」と言われました。

ぼくは、お母さんの手りょうりの中で、一番何が好きと聞かれたら、いつも、「みそしる」と答えます。それは、ぼくの一日は、あたたかいみそしるではじまるからです。毎あさのむみそしるは、気もちを元気にしてくれます。毎日、どんな具が入っているかも、楽しみです。

おばあちゃんが言つてみたいに、毎日ぼくが元気なのは、おいしいごはんのおかげだと思います。たとえば、一週間のはじまりのみそしるは、ぼくの大好ぶつの具。体ちようがわるい時は、さつまいもや、色々なやさいをこまかく切つた具が、た

くさん入つています。おいわいの時は、花形人じんと、花形大こんの赤白の具。うれしい時は、七色のふのようなくべつな具が入つていて、ワクワクします。

みそしるには、ぼくの体だけじゃなくて、ぼくのことを思うお母さんのあいじようが入つているのだと思います。それが、毎日のむおいしいみそしるの、さい高の『かくしあじ』だと思います。だから、一日元気いっぱいすこせるお母さんのみそしるが一番です。

お母さんありがとう。毎日、おいしいみそしるをありがとう。ぼくのことを考えてくれてありがとう。いつもそばにいてくれてありがとう。

ぼくは、いつでも、お母さんのことが大好きだよ。それは、みそしると同じで、ぼくの心の中には、いつも、あたたかいお母さんのあいじようが、たつぷりあつて、ぼくを元気にしてくれているからだよ。

みそしるは、お母さんのあじがするよ。みそしるをのむと、お母さんが、どれだけぼくを大好きなのがわかるよ。お母さんのみそしるは、ぼくの宝ものだよ。

お母さんいつもありがとう。